



平成30年度 水稻生育診断情報 No.1

(平成30年6月12日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今回は6/28頃の予定)

現在の生育状況

- ◎ 作況調査では、草丈が短く、茎数は少ないものの、県内ほ場では、概ね平年並の生育となっている。
- ◎ 移植の早いほ場では、生育はやや旺盛となっている。

管理のポイント

- ◎ 今後急激に生育が進むことも予想されることから、目標穂数の8割の茎数が確保できたほ場では、速やかに溝切り・中干しを実施する！
- ◎ 還元障害が見られるほ場では、軽く干す！

※ 農業技術振興センターのホームページ「みずかがみ」コーナー、facebook もご参照ください。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
4月	下旬	かなり高い	かなり高い	多い	やや多い
5月	上旬	やや低い	平年並	かなり少ない	かなり多い
	中旬	平年並	やや高い	少ない	かなり多い
	下旬	高い	平年並	平年並	やや多い

(2) 地温、土壌窒素の推移

- 日平均地温は、5月中旬以降高低の変動はあったものの、平年よりやや高かった。
- 5月30日時点の土壌中アンモニア態窒素量は、平年並(無窒素区で1.0mgN/100g)であった。

(3) 近畿地方1か月予報【大阪管区気象台6月7日発表】

- 平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- 週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%。2週目は、平年並の確率50%。3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%。

2 生育状況【農業技術振興センター 水稻作況調査による。表1および後掲グラフ参照。】

(1) 移植期 (4月20日播種、5月10日移植)

- 移植時の苗丈は過去4年平均(平成25~27、29年)より長く、乾物率の低い、やや徒長した苗であった。
- 移植時の葉数は「みずかがみ」、「コシヒカリ」、「秋の詩」とも過去4年平均並であった。

(2) 生育初期 (5月31日時点)

早生品種：「みずかがみ」、「コシヒカリ」

■過去5年平均(平成25～29年)に比べて、草丈はかなり短く、茎数はかなり少なかった。

■軟弱な苗質であったことから移植後の活着が遅れ、初期生育は緩慢であった。

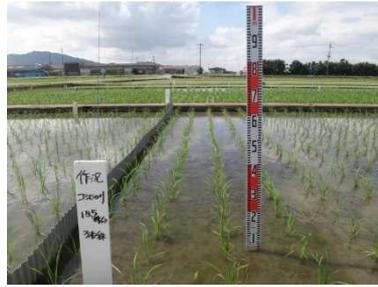
中生品種：「秋の詩」

■過去5年平均に比べて、草丈はやや短く、茎数はかなり少なかった。

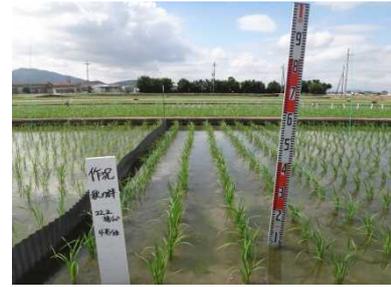
■早生品種と同様に初期生育は緩慢であった。



「みずかがみ」



「コシヒカリ」



「秋の詩」

表1 平成30年(2018年) 水稻作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				主稈葉数(枚)			
		本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	比	前年	本年	H25-29	較差	前年
5/31	みずかがみ	22.1	24.1	92	22.7	118	185	64	191	6.1	6.1	0.0	5.9
	コシヒカリ	22.9	25.0	92	24.8	131	166	79	175	5.3	5.8	-0.5	5.9
	秋の詩	20.3	20.9	97	21.3	218	245	89	243	5.7	5.6	0.1	5.9

移植日は5月10日(播種日:4月20日)。「みずかがみ」、「コシヒカリ」は栽植密度18.5株/m²、植付本数3本/株。「秋の詩」は栽植密度:22.2株/m²、植付本数:4本/株。

3 今後の管理

(1) 水管理(溝切り・中干し)

■目標穂数の8割の茎数が確保できれば、遅れずに溝切り・中干しを行う。

■中干しの際は、強制落水は行わず、自然減水とする。

■還元障害が見られるほ場では、軽く干して、根の生育を助ける水管理を行う。

中干し開始の茎数と時期の目安

【茎数】	栽植密度 (株/坪)	1株あたり 茎数(注)	【時期】	移植時期	中干しの 目安時期
	70	14～15本		(注) 目標穂数380～400本/m ² とした場合に、その8割の茎数 (300～320本/m ²)に相当する 1株あたりの茎数。	5月上旬
60	17～18本	5月中旬	6月10日頃		
50	20～21本	5月下旬	6月20日頃		

溝切りの目的

- ①中干しの効果を高める。
- ②中干し後の水管理を行いやすくする。
- ③収穫期に短時間で落水しやすくする。



中干しの目的

- ①無効分げつを抑制し、過繁茂を防ぐ。
- ②土壌中に酸素を供給し、根の伸張を促す。
- ③田面を硬くすることで、収穫直前まで入水できるようにする。



茎数 18 本/株

これが中干し開始時期の株張り程度（坪 60 株植）



(2) 追肥

①側条施肥田植および緩効性肥料栽培体系の場合

■側条施肥田植および緩効性肥料栽培で、基肥に追肥分を含めて施用している場合は、茎数が少なくても追肥の必要はない。

②速効性肥料の基肥+追肥体系の場合

- 本年は幼穂形成期が早まることも予想されるため、追肥施用が遅れないよう注意する。
- 中山間地帯や地力の低い生育不良田では、下表より3～4日早めに施用する。
- 追肥施用に際しては浅水で行い、施用後少なくとも5日間は田面水を流さず、水田からの窒素やリン酸の流出を抑える。

平年の追肥施用時期（5月中旬までの移植）

品 種	追肥施用時期
極早生・早生品種	6月10日頃
中生・晩生品種	6月20～30日

注) 「みずかがみ」では、6月上旬の追肥は施用せず穂肥で対応する。

(3) 病害虫防除

6月5日発表の「病害虫発生予報第4号」 (<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/yoho/yoho30/yoho04.html>)

を参照

葉いもち（6月5日発表の「病害虫発生予報第4号」より引用）

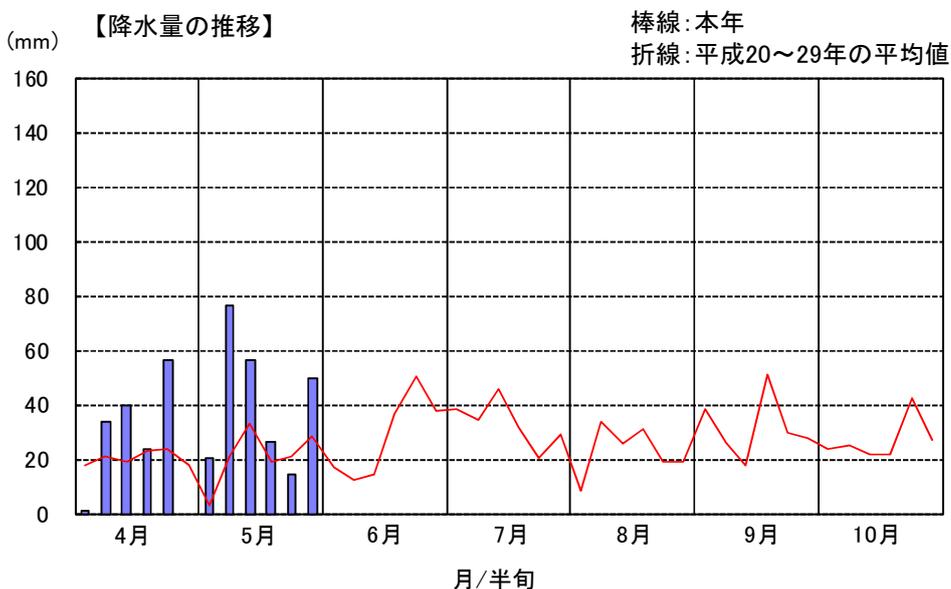
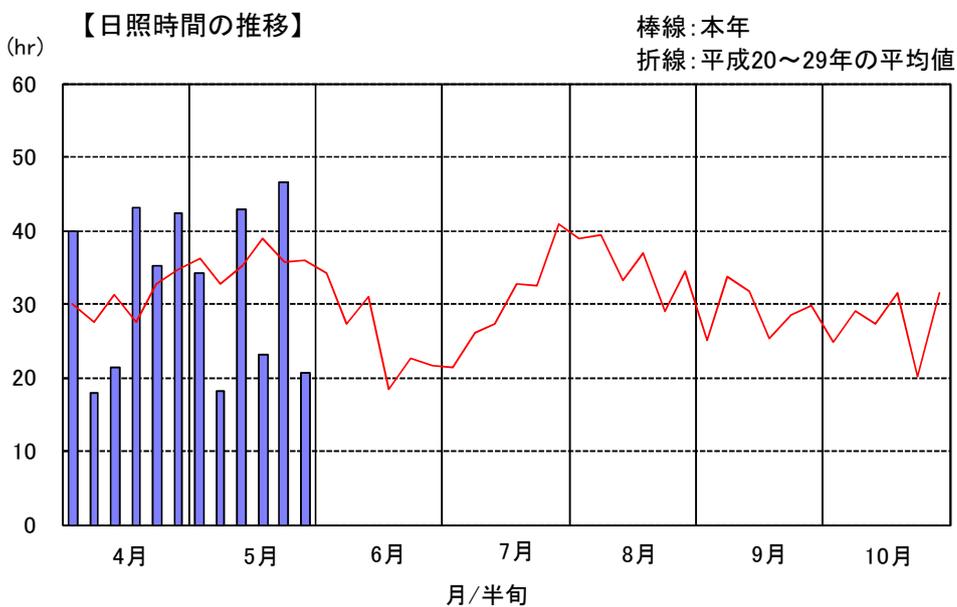
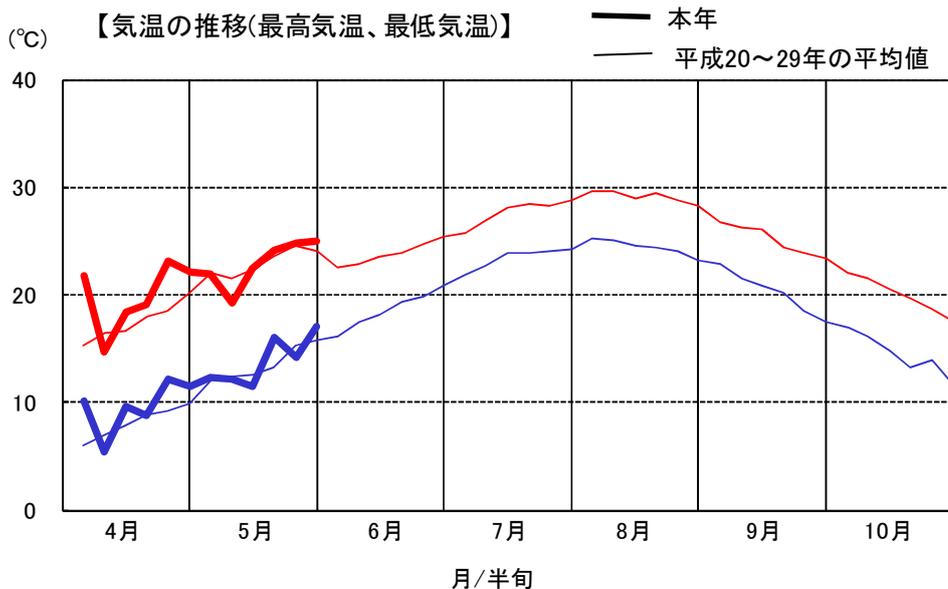
発生時期：平年並、発生量：平年並

- ①余剰苗は直ちに除去する。
- ②移植栽培では、いもち病に有効な長期持続型の薬剤を育苗箱に施用、または移植時に側条施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低い。
- ③直は栽培では、いもち病に有効な長期持続型の薬剤を、は種同時施薬機を用いて土中施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低い。
- ④発生を認めたら直ちに薬剤を散布する。特に、多肥田や晩植田、「コシヒカリ」・「キヌヒカリ」・「秋の詩」・「滋賀羽二重糯」では注意する。ただし、耐性菌を生じやすいので、穂いもちの防除も考慮して同一グループ薬剤の連用を避ける。

【参考サイト】

農業技術振興センター	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/
病害虫防除所	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/
彦根地方气象台	http://www.jma-net.go.jp/hikone/
異常天候早期警戒情報	http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

平成30年(2018年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

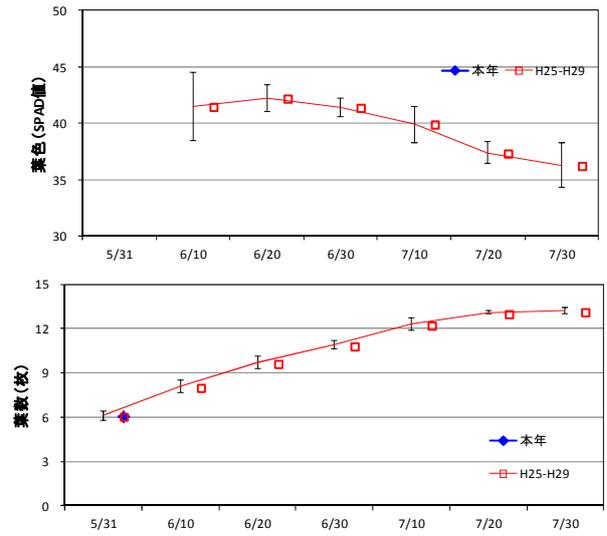
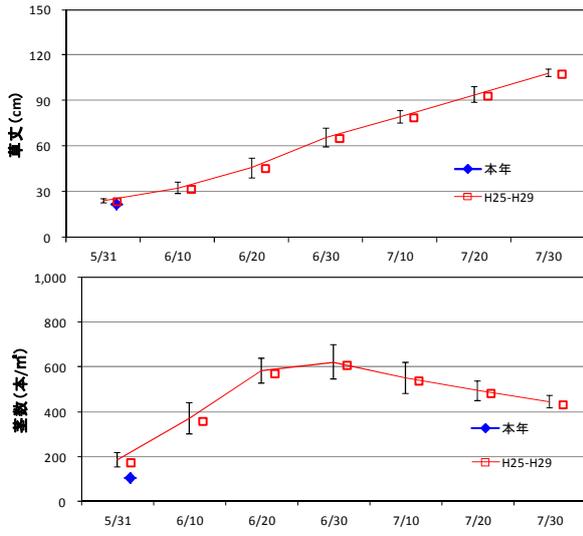


注) 平年は平成20~29年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

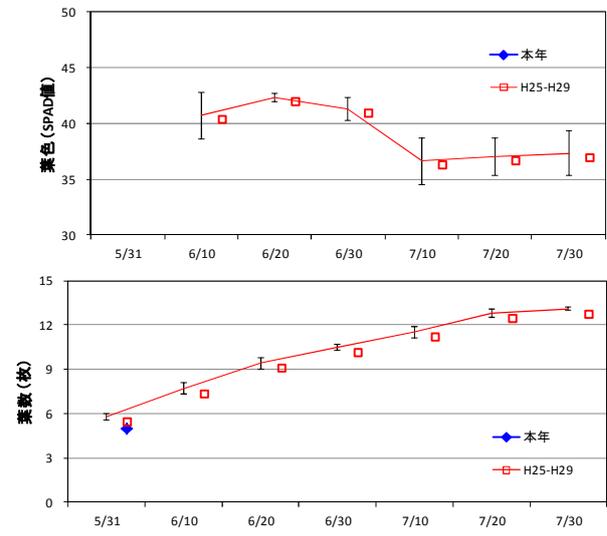
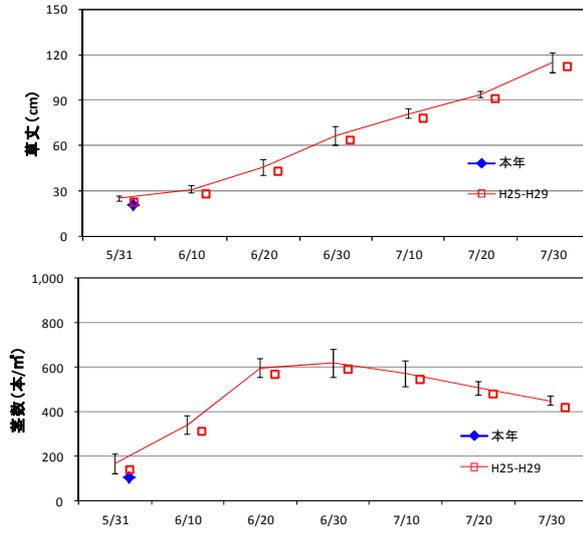
平成30年(2018年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

【みずかがみ】 播種:4月20日、移植:5月10日、栽植密度:18.5株/m²、植付本数:3本/株



【コシヒカリ】 播種:4月20日、移植:5月10日、栽植密度:18.5株/m²、植付本数:3本/株



【秋の詩】 播種:4月20日、移植:5月10日、栽植密度:22.2株/m²、植付本数:4本/株

